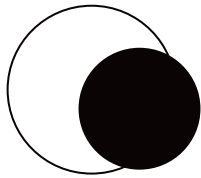


沿革

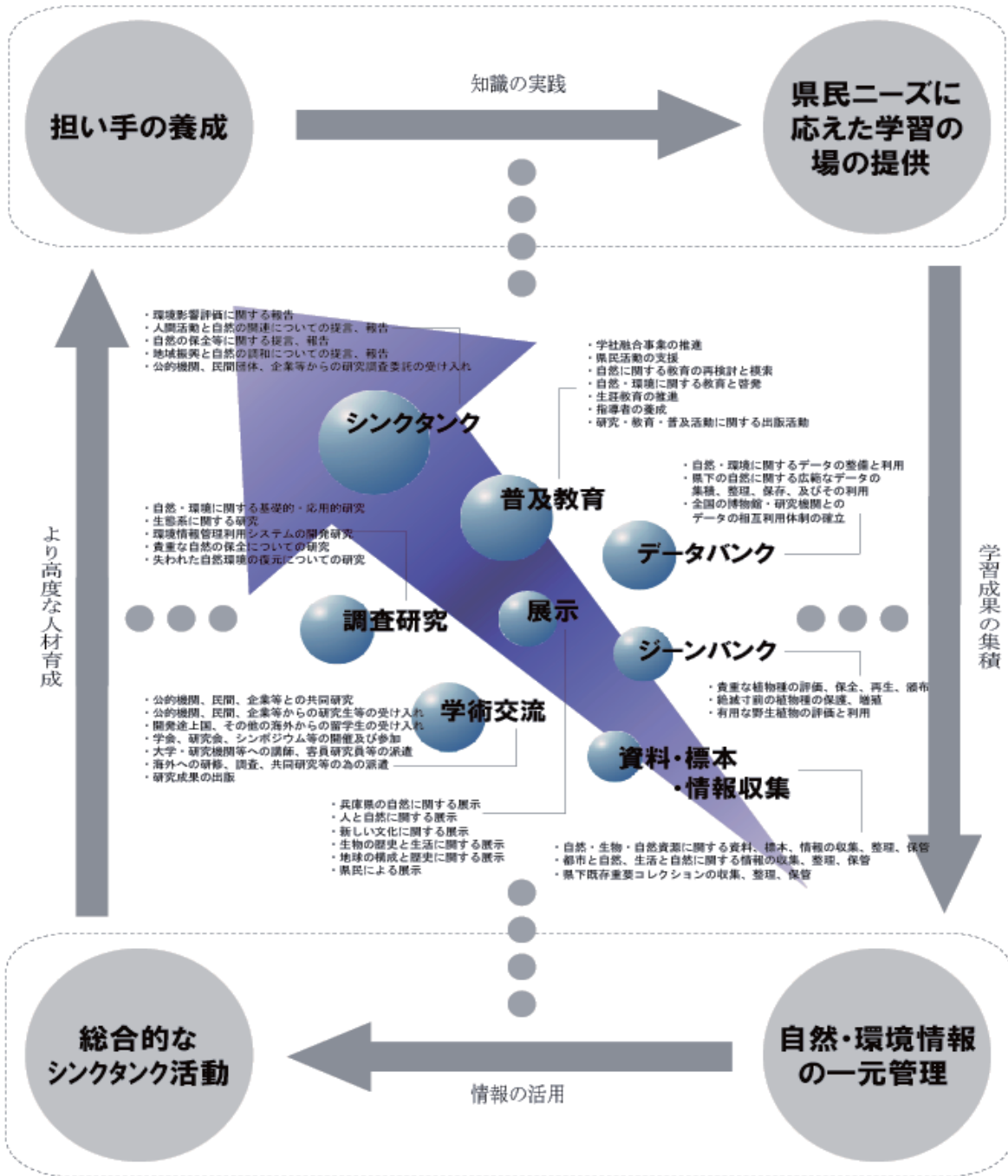
昭和44年2月26日	「県立自然科学博物館設置について」県議会に請願が行われた。
昭和44年6月5日	県議会において請願が採択された。
昭和48年6月	兵庫県自然保護協会から環境保全・自然保護活動の分野の博物館設置について要望書が提出された。
昭和51年5月	IFHP兵庫国際会議が開催され、人間居住環境研究センターを設置する必要性が認められた。
昭和59年4月	自然系博物館建設調査費が予算計上された。
昭和61年12月	兵庫県立自然系博物館建設基本構想(報告)が策定された。
昭和63年8月	自然系博物館は三田市のホロンピア館を活用して建設することが決定した。
平成元年4月1日	兵庫県教育委員会社会教育・文化財課に自然系博物館(仮称)設立準備室が設立された。
平成3年12月	研究・収蔵棟が完成した。
平成4年3月25日	本館(ホロンピア館)の様式替え工事が完了した。
平成4年4月1日	兵庫県立人と自然の博物館の設置および管理に関する条例および同規則が施行され、同時に人と自然の博物館内に姫路工業大学自然・環境科学研究所が設立された。
平成4年6月25日	ジーンファームが完成した。
平成4年9月20日	エントランスホールが完成した。
平成4年9月30日	コートヤードゾーン、屋内展示工事、情報センター設備が完成した。
平成4年10月9日	兵庫県立人と自然の博物館開館および姫路工業大学自然・環境科学研究所開所の記念式典が挙行された。
平成4年10月10日	開館。
平成9年6月14日	マレーシア国立サバ大学と国際学術交流協定を締結した。
平成9年11月4日	文部省の科学研究費補助金取扱規定による研究機関に指定された。
平成10年3月12日	日本育英会施行令による日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所に指定された。
平成11年11月13日	NPO法人「人と自然の会」(博物館ボランティア)と協力協定を締結した。
平成13年4月	兵庫県教育委員会行政組織規則の改正に伴い、博物館の組織が大きく改編され規則の改定を行い、博物館事業の新展開を公表した。
平成14年4月	博物館事業の新展開を着実に推進するために、平成18年度までに実現させる数値目標と考え方を示した中期目標を公表した。
平成14年10月	博物館が開館10周年を迎え、10周年記念式典を執り行った。
平成16年4月	県立大学の統合に伴い、博物館に設立する研究所を兵庫県立大学自然・環境科学研究所に改称した。
平成18年6月	猪名川町と協力協定を締結した。
平成18年9月	丹波地域で恐竜化石が発見され、発掘を開始した。
平成19年3月	新たな「兵庫県立人と自然の博物館」基本構想が策定された。
平成20年3月	新たな「兵庫県立人と自然の博物館」基本計画が策定された。
平成20年4月	「ひとほく恐竜ラボ」がオープンした。
平成21年7月	加東市と協力協定を締結した。
平成21年8月	佐用町昆虫館と連携協定を締結した。
平成22年6月	篠山層群における恐竜・哺乳類化石等に関する基本協定を締結した。
平成24年10月	博物館が開館20周年を迎え、20周年記念式典を執り行った。
平成25年3月	「ひとほく将来ビジョン」が策定された。



機能

生涯学習の支援

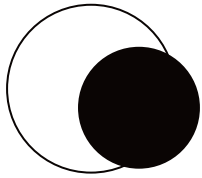
- ・展示法の創意工夫と資料の充実
- ・生涯学習実践フィールドの充実
- ・生涯学習の担い手の養成
- ・広域の充実



自然・環境に関するシンクタンク機能

- ・総合的なシンクタンク機能の充実
- ・自然・環境情報の一元管理と絶滅危惧植物の保護増殖

博物館の基本8機能と重点事業の展開方針



常設展示の概要

○ 本館3階

■ 兵庫の自然誌

兵庫県は日本海と瀬戸内海・太平洋に面した数少ない県で、北部の多雪地帯から南部の暖温帯まで、多様な自然があります。人々の生活は多様な自然の影響を受けていますが、人々の生活、も各地の自然のありように強く影響を与えています。ここでは、但馬、丹波、播磨、摂津、淡路の特色ある自然を標本、映像、ジオラマなどで紹介します。「森に生きる」には、兵庫県の野生動物をはく製で紹介しています。



■ 人と自然

先人達がいかに自然とうまくつきあってきたか、現在その関係が急速に変化していることを、ジオラマ・映像などで紹介するとともに、“モノ”と“ゴミ”が、豊かな暮らしのあり方や環境問題を問いかけます。



■ ナチュラリストの幻郷

博物館の収蔵庫には多くの方々から寄贈していただいた資料が集められています。

このコーナーでは江田茂氏による 27 万点に及ぶ昆虫コレクションや小林桂助氏による貴重な鳥のコレクションをはじめとする、コレクション類の一部を紹介しています。



■ 丹波の恐竜化石

2006 年 8 月に丹波市山南町で発見された大型草食恐竜化石の肋骨、尾椎、血道弓などを展示しています。同じ場所で見つかった他の恐竜の歯、小動物の化石なども随時展示しています。



○ 本館2階



■ 水生生物の世界

川や海といった水中に暮らす生物の食物連鎖や環境への適応を展示しています。淡路のナガスクジラの骨格標本や川の上中下流の魚類などの標本があります。



■ ひとはく多様性フロア ~魅せる収蔵庫トライアル~

【NEW】 2012年10月14日オープン

ひとはくが開館から20年間に寄贈された標本や館員が収集してきた標本などの一部を、一般の来館者にみえるように配置しました。これらの標本は、間近で観察することができます。セミナーや講義など、その場で研究員が解説する「演示」の手法で双方向での対話型の学習にも活用されます。

○ 本館1階



■ 地球・生命と大地

約35億年前の生命の誕生から人類誕生までの生物の歴史を多くの化石標本でたどります。また、森林の多様性、地球のプレート運動、日本列島の生い立ちを紹介します。



■ 共生の森

ラフレシアやオランウータンなど赤道直下のボルネオ島の貴重な標本類を展示しています。生物多様性の豊かな熱帯雨林を体感しながら学ぶことができます。

○ 本館4階

■ひとはくサロン

自由に閲覧できる「図書コーナー」や、自然環境についての最新の情報が集められている「情報コーナー」のほか、「さわれる標本コーナー」「休憩コーナー」などがあります。



○ ひとはく恐竜ラボ

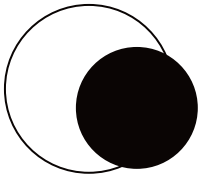
恐竜化石のクリーニング作業及び展示等を行う施設として「ひとはく恐竜ラボ」が2008年4月にオープンしました。研究員などによる作業風景を間近に見ることができます。



※ 移動博物館車『ゆめはく』

2012(平成24)年に、ひとはく開館20周年にあわせて、移動博物館専用の2t車「ゆめはく」を導入しました。「ゆめはく」は、車体そのまま展示室になります。これによって、まったく施設のないところでも、さまざまな資料を展示することができるようになりました。





施設の概要

(1) 規模

- ・敷地(設置許可・使用承認面積): 37,036.54 m²、延床面積: 18,691 m²

(2) 建物構造

- ・本館(鉄骨4階建) 建面積: 4,221 m²、延床面積: 12,222 m²
- ・エントランスホール(鉄筋コンクリートドーム型) 建面積: 360 m²、延床面積: 360 m²
- ・研究、収蔵庫棟(鉄筋コンクリート3階建) 建面積 2,327 m²、延床面積: 5,988 m²
- ・ジーンファーム管理棟(軽量鉄骨平屋) 建面積 121 m²、延床面積: 121 m²
- ・ひとはく恐竜ラボ(鉄骨平屋) 建面積 260 m²、延床面積: 260 m²

(3) 施設の概要

- ・本館(鉄骨4階建)

建築家丹下健三氏の設計による全面ハーフミラー張りの建物。展示関係のスペースをはじめとして、電子計算機室や各研究部・総務課・生涯学習課・情報管理課・各事業室を設置。さらに500人収容のホロンピアホールも設置。

- ・エントランスホール(鉄筋コンクリートドーム型)

博物館への導入的役割を果たしているハーフミラー張りでドーム型屋根の建物。観覧券の発売や博物館の総合案内を実施。

- ・研究、収蔵庫棟(鉄筋コンクリート3階建)

研究や資料整理のための各設備と資料の保存条件に合わせた各収蔵庫を設置。屋上には植栽を実施。

- ・ジーンファーム

ジーンバンク事業を実践とする場として圃場・ガラス室・研究温室・育成温室・昆虫網室、管理棟を設置し、主に県内産の重要植物の保護・増殖に活用。

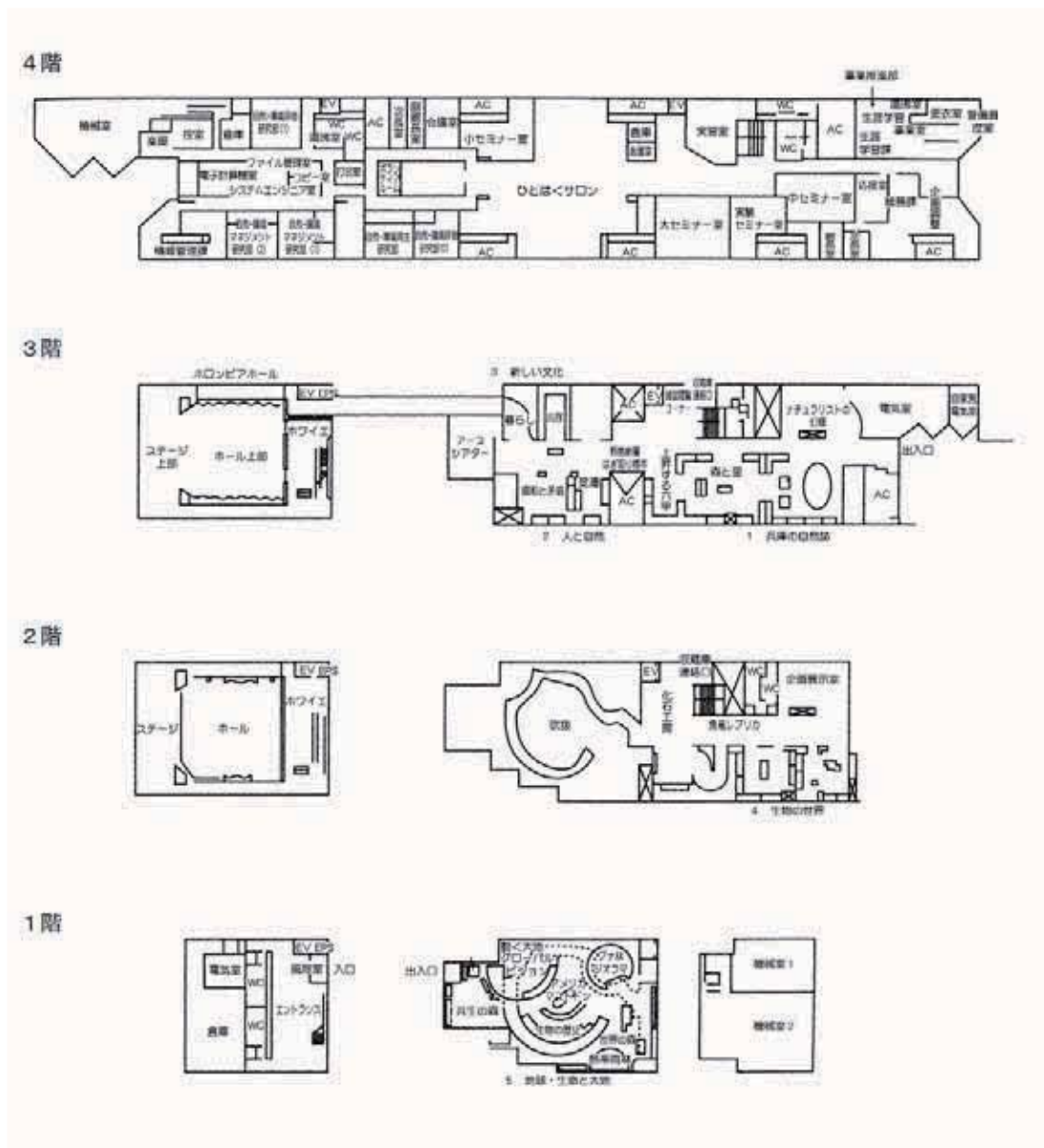
- ・ひとはく恐竜ラボ

恐竜等の化石クリーニングを進めるための施設。クリーニング室、資料室、倉庫のほか、作業を公開し、発掘調査の成果を展示するホールを設置。

(4) 施設状況

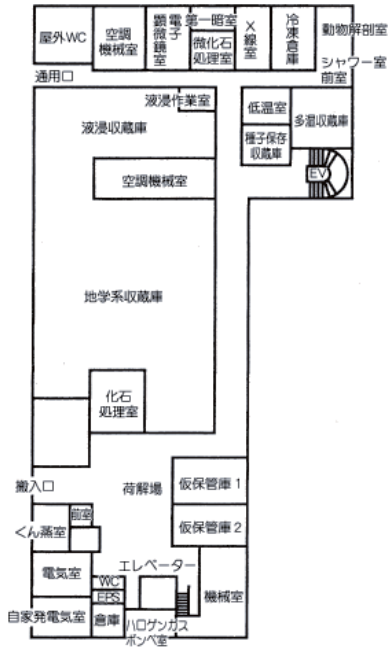
- ・展示関係: 4,124 m²
- ・管理関係: 349 m²
- ・収蔵関係: 2,966 m²
- ・研究関係: 2,105 m²
- ・教育普及関係: 1,324 m²
- ・エントランス: 360 m²
- ・機械、その他: 7,723 m²

●本館

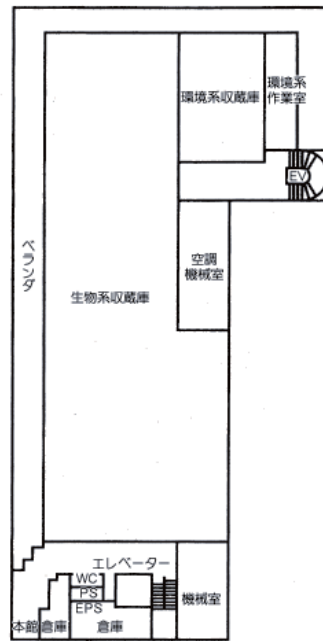


●研究・収蔵庫棟

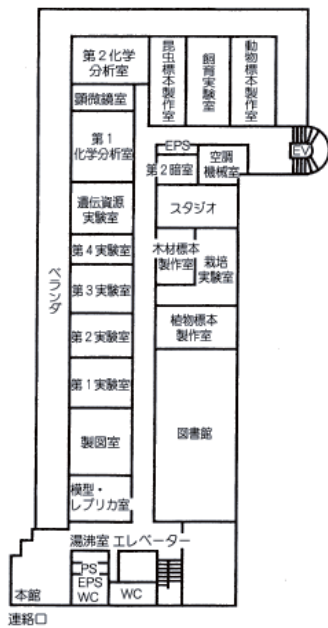
1階



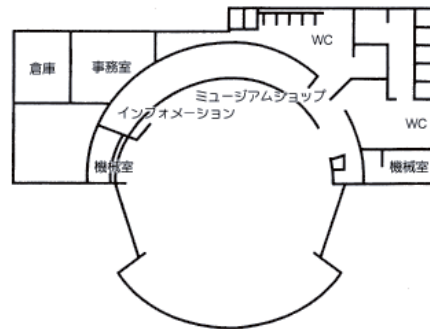
2階

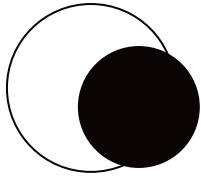


3階



エントランスホール

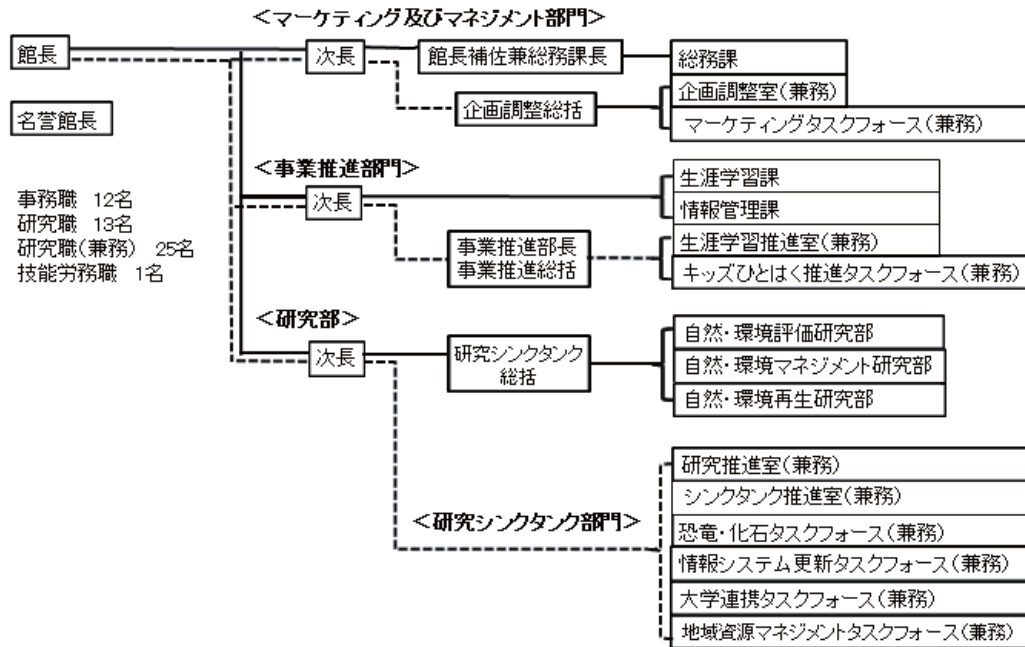




組織と職員

(1) 組織図

平成25年4月1日現在



※ 実線は組織規制上の職制で、点線は館長辞令による博物館独自の職制

(2) 職員数

平成25年4月1日現在

区分	事務職	研究職	技能労務職	非常勤嘱託員	合計
総務課	6		1	3 (館長・名誉館長)	10
情報管理課	2				2
生涯学習課	3				3
自然・環境評価研究部		7 (兼務9)		1	8 (兼務9)
自然・環境マネジメント研究部		2 (兼務7)			2 (兼務7)
自然・環境再生研究部		2 (兼務4)			2 (兼務4)
合計	11	11 (兼務20)	1	4	27 (兼務20)

※ (兼務)は兵庫県立大学 自然・環境科学研究所との兼任職

(3) 職員配置

名誉館長	河合 雅雄
名誉館長	岩槻 邦男
館長	中瀬 勲
次長(事務系)	田中 千雄
次長(研究系)	田原 直樹
次長(事業系)	高橋 晃
館長補佐	光川 安則
企画調整総括	佐藤 裕司
事業推進部長	高橋 晃
事業推進総括	高橋 晃
研究シンクタンク総括	太田 英利

【マーケティング及びマネジメント部門】

総務課	
課長	光川 安則
主査	梶本 悦子
事務職員	沖 裕美子
事務職員	鈴木 智仁
事務職員	東 誠一
技師	塚本 健司
情報管理課	
課長	船越 充
指導主事	坂上 勝彦
<u>企画調整室(研究員兼務)</u>	
室長(主任研究員)	八木 剛
副室長(主任研究員)	鈴木 武
主任研究員	半田 久美子
研究員	黒田 有寿茂
研究員	布野 隆之
<u>マーケティングタスクフォース</u>	
リーダー(主任研究員)	半田 久美子
主任研究員	秋山 弘之

【事業推進部門】

生涯学習課	
課長	西岡 敬三
主任指導主事	八尾 滋樹
主査	柏木 徹
教育事務推進専門委員	井上 充
生涯学習推進室	
室長(主任研究員)	橋本 佳明
副室長(研究員)	藤本 真里
副室長(主任研究員)	三橋 弘宗
副室長(研究員)	小舘 誓治
<u>展示マネージャー(研究員兼務)</u>	
主任研究員	高野 温子
<u>共生のひろばマネージャー(研究員兼務)</u>	
主任研究員	田中 哲夫
<u>連携・共催・協力・スクールパートナーマネージャー(研究員兼務)</u>	
主任研究員	藤井 俊夫
<u>ジオパーク支援マネージャー(研究員兼務)</u>	
主任研究員	先山 徹

主任研究員	山崎 義人
<u>地域・博物館連携マネージャー(研究員兼務)</u>	
主任研究員	松原 尚志
<u>ゆめはくマネージャー(研究員兼務)</u>	
主任研究員	加藤 茂弘
主任研究員	古谷 裕
研究員	上田 萌子
技師	塚本 健司
サイエンスコミュニケーター	高瀬 優子
<u>キッズひとほく推進タスクフォース(研究員兼務)</u>	
主任研究員	古谷 裕
研究員	山本 伸子
技師	塚本 健司
サイエンスコミュニケーター	高瀬 優子
<u>地域展開担当(研究員兼務)</u>	
但馬(研究員)	山崎 義人
但馬(研究員)	布野 隆之
丹波(研究員)	池田 忠広
丹波(主任研究員)	松原 尚志
西・中播磨(主任研究員)	石田 弘明
西・中播磨(主任研究員)	八木 剛
西・中播磨(研究員)	山本 伸子
北・東播磨(主任研究員)	半田 久美子
北・東播磨(研究員)	黒田 有寿茂
神戸(研究員)	鈴木 武
神戸(主任研究員)	高野 温子
阪神北南(主任研究員)	赤澤 宏樹
阪神北南(主任研究員)	三橋 弘宗
阪神北南(主任研究員)	橋本 佳延
淡路(主任研究員)	加藤 茂弘
淡路(研究員)	上田 萌子

【研究開発部門】

自然・環境評価研究部	
研究部長	高橋 晃
<u>研究部長代理(主任研究員)</u>	佐藤 裕司
(地域環境地質研究グループ)	
<u>研究部長代理(主任研究員)</u>	佐藤 裕司
主任研究員	小林 文夫
主任研究員	先山 徹
主任研究員	加藤 茂弘
(埋蔵自然遺産研究グループ)	
主任研究員	古谷 裕
主任研究員	三枝 春生
主任研究員	松原 尚志
主任研究員	半田 久美子
研究員	池田 忠広
(森林多様性研究グループ)	
研究部長	高橋 晃
主任研究員	秋山 弘之
主任研究員	高野 温子
主任研究員	布施 静香
(昆虫共生系研究グループ)	
主任研究員	太田 英利
主任研究員	橋本 佳明

主任研究員 八木 剛

自然・環境マネジメント研究部
 研究部長 太田 英利
研究部長代理(主任研究員)
 (流域生態研究グループ) 田原 直樹
 研究部長 太田 英利
 主任研究員 田中 哲夫
 主任研究員 三橋 弘宗
 (動物共生研究グループ)
 主任研究員 三谷 雅純
 研 究 員 布野 隆之
 (コミュニティデザイン(多自然居住)研究グループ)
 副 館 長 中瀬 勲
 主任研究員 藤本 真里
 主任研究員 赤澤 宏樹
 (コミュニティデザイン(都市再生)研究グループ)
研究部長代理(主任研究員) 田原 直樹
 研 究 員 山崎 義人
 研 究 員 上田 萌子

自然・環境再生研究部
 研究部長 高橋 晃
 (植生創出研究グループ)
 研究部長 高橋 晃
 主任研究員 石田 弘明
 研 究 員 小舘 誓治
 主任研究員 橋本 佳延
 (生物多様性保全研究グループ)
 主任研究員 藤井 俊夫
 研 究 員 鈴木 武
 研 究 員 黒田 有寿茂

研究推進室(研究員兼務)
 室長(主任研究員) 秋山 弘之
研究紀要・資料整理活用マネージャー(研究員兼務)
 主任研究員 三谷 雅純

シンクタンク推進室(研究員兼務)
 室長(主任研究員) 石田 弘明
シンクタンク・ジーンバンクマネージャー(研究員兼務)
 主任研究員 橋本 佳延

【タスクフォース群】

恐竜・化石タスクフォース
 リーダー(主任研究員) 三枝 春生
 サブリーダー(研究員) 池田 忠広
 主任研究員 佐藤 裕司
 主任研究員 小林 文夫
 主任研究員 松原 尚志
 主任研究員 半田 久美子

情報システム更新タスクフォース

リーダー(主任研究員) 三橋 弘宗
 サブリーダー(主任研究員) 古谷 裕
 主任研究員 太田 英利
 主任研究員 赤澤 宏樹

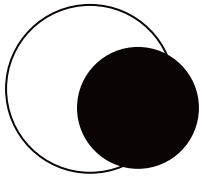
地域資源マネジメントタスクフォース

リーダー(主任研究員) 先山 徹
 サブリーダー(主任研究員) 山崎 義人

館長補佐 岩崎 晃一

(平成25年4月1日現在)

なお下線は館長辞令による人と自然の博物館独自の職制



各研究部の概要

■ 自然・環境評価研究部

自然環境保全の基盤となる地形学や地質学、過去と現在の生物を対象とした分類学や形態学、生物地理学等の分野の調査研究と資料収集活動に取り組んでいます。

本研究部では、これらの成果に基づき、過去から現在、そして兵庫県から地球レベルにいたる自然環境の変遷や生物相の由来、生物多様性を創出し維持している共生関係の解明を進め、自然環境保全のための有効な提案を行っていきます。

■ 自然・環境マネジメント研究部

人間の生活は、農山村はもちろんのこと、都市においても自然と深く結びついて成立しています。人間による自然へのインパクトが強力になっている現在、自然と環境のマネジメントが不可欠になっているのは、このことによります。

本研究部では、人間と野生動物の共存、自然と調和した地域づくり、都市の再生などに関する資料収集・調査・研究を行い、未来の人と自然のあり方を探求します。

■ 自然・環境再生研究部

植生・植物に関する保全生態学や保全生物学の研究を行っています。現在、さまざまな要因によって自然が破壊され、里山林や半自然草原などの植生やフジバカマ、エビネ、カザグルマなどの植物が危機的な状況にいたっています。

本研究部では、そのような状況にある植生や植物の保全・復元・創出活動を積極的に進めています。このような活動を通じて、県下の植生・植物の生態情報の収集や貴重種のジーンファーム（ジーンバンク機能を果たす圃場）における増殖などの事業も展開しています。